

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 海津特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年2月28日(月)
- 3 参加者

会長	水谷 芳郎	有限会社吉野屋 代表取締役
副会長	児玉 泉	民生委員(主任児童委員)
委員	高岡 由香	障がい者センター あいさんハウスぎふ施設長
	大橋恵美子	共同生活援助 れんげの家 所長
	細井 豊年	海津市平田町今尾地区 前区長
	飯田かゆ美	海津市更生保護女性会 会長
	佐藤沙奈恵	海津特別支援学校 PTA会長
学校側	各務 美保	校長
	神谷佳代子	教頭
	武藤小百合	事務長
	栞原 正美	小学部主事
	馬淵 陽子	中学部主事
	山田 理嗣	高等部主事

#### 4 会議の概要(協議事項)

##### (1) 今年度の学校運営について

- ① 今年度の取組
- ② 各学部の取組

意見1: 学校教育を受けている児童生徒にとってコロナ禍における2年余りのハンディキャップは大きなものがある。それを克服するため、学校の努力、先生方の工夫に敬意を表する。そのために教職員の負担にならないよう配慮してほしい。

意見2: コロナ禍で行事が予定通りに行えないことが多かった中、児童生徒のために教職員が様々な工夫をし、少しでも実行できたことはよかった。コロナ以前には「できなかった体験」もでき、楽しさや大変さを児童生徒自身が感じたのではないかと。

意見3: 感染症対策に追われる日々の中、児童生徒が学年で行うべき学び、体験を落とすことなく、教職員の工夫により実施されていることは素晴らしい。今を大切にすることが、成長と生きる力につながる。また、ICTの活用等、今までとは違う視点で物事に挑戦すること、考えることも大切である。今後も学び、体験、そして仲間との時間が個々の生きる力につながるよう願っている。

意見4: 昨年度に引き続き、コロナ感染防止の対応については大変な思いをして教育活動を続けていることがよく分かる。そのような中でも中学部・高等部の一泊の修学旅行、小学部の日帰り修学旅行、活動場所を配慮した校外学習、保護者を制限しながらの文化祭等を実施したことは、教職員には、心労や苦労があったと思うが、児童生徒

には素晴らしい思い出になった。仲間と一緒に取り組む学校行事は、児童生徒を成長させ、それを見て感じ取る保護者もうれしい気持ちになる。

また、オンラインでの小学校・中学校・高等学校との交流、交通安全推進大会、MS・MS Jリーダーズ20周年研修大会への参加など、関わり方は時代とともに変わるが、同年齢の児童生徒、地域の人との関わりは障がい理解の素地づくりと考えたととても大切な活動であり、今後も大切にしてほしい。生徒の製品を大切にしている方も思うので、高齢者へのプレゼントという活動も大切にしてほしい。更に、作業製品のWEBでの販売が実現することを願っている。

## (2) 学校評価アンケート結果と考察について

意見1：保護者が協力的であることが素晴らしい。学校に対する期待の大きさである。今後も学校と家庭、そして地域がより一層連携をとっていけるように協力したい。

意見2：過年度よりも高評価の項目が多くあるのは、教職員の努力の結果である。大変だが、今後とも継続してほしい。

意見3：学校外での活動、交流の場をどのように継続していけるのか、社会情勢を考えると課題がいろいろある。「生」の体験は、今後も制限があるが社会の中で活動できる時間を設けてほしい。

作業製品の販売も、対面以外の方法でぜひともやってほしい。

参観等が難しいが、学校の様子は様々な形で発信すると地域としても楽しめるし、学びの姿を知ることで社会資源としても学びとなる。

意見4：昨年度同様、学校の教育活動がコロナ禍の中、保護者の理解の上で行われていることがよく分かるアンケート結果だった。特に「5 学校は保護者が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気である」は「あてはまる」との回答が昨年度から大きく増えている。専門性、社会的常識、熱意等、職員に対する評価も高くなり、児童生徒や保護者に寄り添った教育活動が実践されていることが分かる。

さらに「わからない」の回答は、どの項目もすべて一桁台となっていることは、学校の教育活動全体への良い評価である。進路関係の項目は「良くあてはまる」が59%となっているが、高等部の生徒が地域で働くことを考え、今後スマイルサポーター事業の継続と拡大が進路関係の項目の数字を上げることにつながる。

## (3) 学校への提言等

意見1：支援学校ならではの苦労があるかと思うが、その分、児童生徒が「できた」ことへの感動も大きいものがある。

意見2：児童生徒の「頑張っている姿」が発信できるとよい。

意見3：是非地域の福祉施設を活用し、児童生徒の学び、家族の将来を見据えた時間として生かしてほしい。様々な配慮をされ教育活動を行っていることを評価したい。

意見4：コロナ禍で、小規模校のメリットを最大限に生かし、かけがえのない「いのち」を大切に教育を展開してほしい。

意見5：地域の一員として、本校でボランティアとして早く活動したい。

意見6：重度の障がいのある児童生徒に個々にあった丁寧な支援をしてほしい。

意見7：授業参観が中止等、保護者が学校に行き児童生徒の様子を見る機会が少ないのが残念であった。時期をずらしたり、少人数にしたりして、参観の機会を減らさないようにできるとよい。

意見8：現時点でコロナがどうなるか分からない以上、いろいろなシミュレーションをしておいた方がよい。何を最優先するのか、状況が悪くなった時は、どれから削るかをあらかじめ決めておくと計画がしやすい。

意見9：教職員の働き方改革については、学校としてどのような取組をしているかが明確になっているとよい。

## 6 会議のまとめ

コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今回は書面での開催とした。今年度の取組やアンケート結果などの資料から多くの意見が得られた。来年度の教育活動にこれらの意見を生かしたい。